

「カネを出し渋るのは財務省なのに政治家ばかりが咎められるのは何故ですか？」

令和2年4月22日

●オーシュさんからの質問

現実にカネを出し渋っているのは財務省と聞きます（藤井先生、三橋先生など）。それなのに政治家の無能ばかりが責められ、役人は巧妙に矢面に立たないようにマスコミを操作しているように見えます。西田先生の率直なご意見をお聞かせください。

●西田昌司の答え

新型コロナウイルスのために減収した世帯へ30万円の給付金を出す話が今回、国民一人当たり10万円の給付金に変更されました。この変更によって赤字国債の発行額が増加（3～4兆円程度から12兆円程度）することになりましたが、この変更をさせないように財務省が暗躍していたという事実が実はありました。財務省のせいで政治のスピード感が失われ、そのために政治家が責められるという面が確かに存在します。

給付金の話が出始めた当初、私を含めた多くの議員は（所得制限を設けることなく）全国民に一刻も早く給付すべきという意見を持っていましたが、これが自民党内の会議で一旦、不実施の方向となりました。「全国民に給付するとなると時間がかかるので減収世帯に絞るべきです。麻生内閣の時代、リーマンショックに際して、全国民に1万2千円の給付金を出しましたが、大して効果ありませんでしたし、時間がかかりました」との財務省の説明があったのでそのような方向転換がなされたのですが、これは一刻も早く給付すべきと考える議員にとっては納得できる話でした。第一弾は減収世帯への給付をすとしても、第二弾で全国民に給付すれば良いとの考えもあり、二

階幹事長もそのようにおっしゃっていましたので、まずは第一弾を急ごうという空気になったのです。

その後、公明党の山口代表から「第一弾と第二弾で分けるのではなく最初から全国民に給付したらどうか」との提案があり、これがきっかけとなって全国民への給付の命令が安倍総理から財務省に下って急転直下決定されたのですが、あれだけ減収世帯への給付にこだわっていた財務省が総理に命令されるやいなや「住民基本台帳に記載されている人を対象として、本人確認書類の受領後、指定口座に早急に振り込みます」と抜かすのです。

私は財務省の役人にどういう風の吹き回しなのか尋ねましたが、彼らは黙りこくってしまって答えません。「全国民への給付が駄目だなんて、誰が言ったのですか」といった具合にしらばっくれるものですから、「最初に言っていた話と違うじゃないか、いい加減にしろ！」と私は彼らを怒鳴りつけました。結局、財務省としては赤字国債を一円でも減らしたかったがために「全国民に給付するとなると時間がかかります」と嘘をついていたのです。

給付の具体的な方法にまで政治家が口を出す必要はありませんし、政治家が給付の決定を下したら役人は最適な方法を考えて実行するだけの話ですが、政治家の判断を誤らせる虚偽の情報を入れ知恵して自分たちに都合の良いように操ろうとする習性が財務省の人間にはあるのです。

財務省は「財政の健全化」にこだわって、プライマリーバランスを黒字化しなければ日本は財政破綻すると国民を煽ってきました。そのせいで日本は長年のデフレに苦しんでいるのですが、政治家の中でも財務省に騙されている人が結構います。

先日、ある先輩の先生が10万円の給付金に関して「今は新型コロナウイルスで国民が苦しんでいるから12兆円分の赤字国債の発行も仕方ないけど、何れは税金で回収しなければならないから本当はもっと慎重にやるべきなんだ」とおっしゃっていましたので、私は間違いを指摘いたしました。

今回の給付金を税金で回収する必要は全くありませんし、そのようなことをしてしまえば国民は救われずに、給付の意味がありません。「赤字国債発行」というと聞こえが悪いですし、いつかは返してもらわねばと勘違いしてしまいましたが、正しくは「通貨発行」なのです。国民の誰かからおカネをとってそのおカネを国民の誰かに渡すのではなく、政府が通貨を発行して国民に供給しているのです。

ところで、4月18日の日経新聞の『春秋』というコラムにひどいことが書かれていました。緊縮財政を旨とする彼らですから、今回の全国民への10万円給付について、日本の財政を悪化させるといった具合の批判をしているのはいつもの通りなのですが、

ある与党の議員がネット上で、積極財政を正当化する「現代貨幣理論(MMT)」に触れ、「理論が容認された」と発言していた。

と、暗に私を批判していました。

私は自分の発言に恥じることはありませんし、私を批判するのであれば正々堂々と名指しで批判すべきです。そうすれば、私の過去の動画を検索して私の考えを知る国民も出てくるでしょうし、事実と反する新聞記事によって事実を知る国民が増えれば私も本望です。

財務省さんに日経新聞さん、陰でこそこそせずに、正々堂々と議論をしましょう。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>